

令和 3 年度 福岡市立 [青葉小] 学校 学校評価実施状況(公表用)			
めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
【めざす学校像】 ○ 信頼された学校 ○ 共育が進められる学校 【めざす子ども像】 「あ」明るくたくましい子ども「お」おもしろいのある子ども 「ば」場や時を考え、行動できる子ども 【めざす教員像】 ○ 児童のために研究実践に努める教員 ○ 専門性と実践的指導力を身に付けた教員 ○ 人間性豊かで児童を理解する教員 ○ 保護者・地域の信頼に応える教員	学力向上のための授業改善	○テーマ研修を通じた授業づくりと授業公開による教師の授業力向上 ○児童の実態分析に基づく学習指導方の究明	
	規範行動の徹底と質の向上	○自ら立ち止まり相手の目を見て挨拶・黙って掃除・靴そろえの徹底 ○全校一致の生徒指導体制の定着・強化	
	「共に高まる」学級(学習)集団づくり	○他者のよさを認め、自己のよさに気付く学級集団づくり ○対話的な深い学びを通じた相互に認め合う学習集団づくり	
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
学習規律の徹底 教師の授業改善への取組 教師のICT活用能力の向上	○ 学習規律を大切に授業を実施し、学級の90%の児童に「聞く・話す・書く」等の学習規律定着を図る。 ○ 学習過程にセルフトークを位置づけ、80%の児童が学習を振り返ることができる。 ○ 1日に1時間はICTを活用した授業実践に積極的に取り組み、各教師のICT活用能力の向上を図る。 ○ 6月にICT活用能力についてアンケートを実施し、3月までに全教員のICT活用能力の向上を図る。	○「教師や友達の話の体を向け目を見ながら聞いている」89%、「はいと返事をしている」89%、「教師と敬語を使って話している」85%という児童の姿についての結果が出ている。授業中の私語や離席などは見られず、ほとんどの児童は落ち着いた学習態度が身につけているが、一部、姿勢保持の難しい児童や学習意欲が持続しない児童へ継続して指導が必要である。 ○「子どもたちは、セルフトークにより学習の振り返り活動を行っている」92%、「自己の考えを明確化する工夫を行った」100%という児童・教師双方の姿についての結果が出ている。ほとんどの学年で、授業最後に学習を振り返り、自己との対話を位置付けることは定着してきている。 ○「ICTを活用して授業に取り組んでいる」93%という児童の姿についての結果が出ている。全学年でいろいろな教科でタブレットを用いて学習アプリを授業に活用しており、教師のICT活用能力の向上が見られる。 ○各実践をクラウド上に保存して紹介し合ったり、講師を招聘してアプリ活用実践研修を行ったり、年間を通して教師のICT活用能力を向上させている。アンケートによる評価では、90%の職員がICT活用能力の向上を実感している。	
規範意識・規範行動の向上 生徒指導の協働体制の構築	○ 「自ら進んで、立ち止まり」挨拶ができる児童を、3月調査で95%以上にする。 ○ 掃除時間「黙々掃除」(私語をしないで掃除する)ができる児童を3月の調査で90%以上にする。 ○ 緊急性の高い生徒指導については、全校放送で一斉指導を行い、「即対応」を重視する。 ○ 毎月1回生徒指導部会を実施し、生徒指導の進捗状況を把握し、終礼等で全職員で情報交換を行う。	○87%の児童が「進んであいさつをした」と自己評価しており、毎朝の登校指導での「自ら立ち止まってあいさつ」する姿も定着してきている。自発的な姿は学年を問わず日常的に見られるが、立ち止まってという意識はまだ不十分である。 ○89%の児童が「もくもくそうじをした」と自己評価しており、掃除開始時に「黙想」をして気持ちを整える習慣も定着している。 ○生徒指導事案は、学年主任・生徒指導主任・管理職に報告し、次の日には指導の方針をまとめて、全校放送や朝の会・帰りの会で全校一斉指導を行った。特に放送指導では、確実に同じ内容での指導ができ、事案の早期解決につながっている。 ○毎月の定例会で情報交換を行い、生徒指導の学校方針を各学年の指導とすり合わせた。共通理解が必要な内容は終礼等で報告し、指導の徹底を図り、協働体制をつくっている。年間を通して、生徒指導事案の早期解決ができた。	
自己肯定感の高まり 学級集団づくりの向上	○ 児童の自己肯定感に関して、3月調査の中で90%以上の児童が肯定的回答ができるようにする。 ○ QUアンケートの活用研修を実施し、児童理解力を高められるようにする。 ○ 学年研修の中で1月に1度は、QU調査結果を活用して、担任の学級集団づくり能力の向上を図る。 ○ SEL8Sの授業実践を通して、児童の人間関係づくりに関するスキルの向上を図る。	○生活アンケートにおける自己肯定感に関する肯定的な回答は90%以上で、自尊心の高まりは安定している。教師による教育評価では、「他者の良さを認める気持ち、自己のよさに気付く目線を育成した」96%、「授業を通して相互に認め合う学級(学習)集団づくりを行った」100%という結果が出ており、日頃の学級経営・学習指導が影響していると思われる。 ○夏季休業中に講師を招聘してQUアンケートの活用研修を行った。この研修を基に、支援が必要な児童に配慮しながら、1年間の学年・学級経営に取り組むことができた。 ○学年研修の際には、QUアンケートの調査結果に基づき、配慮のいる児童の様子や児童同士の関係について考察した。 ○教師による教育評価では、「学習指導や道徳の時間を活用したSEL8の実施をした」100%という結果が出ており、計画的に実践が実施できた。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・ 昨年に引き続き、感染症対策のため学校行事等への参加ができず、なかなか行事の様子を参観することができないが、2学期の学校サポーター会議で学習の様子を参観することができた。どの学級も、子どもたちは落ち着いて学習に参加しており、安定した学校運営が行われていると感じた。 ・ 地域で会う子どもたちは、「立ち止まって挨拶する、明るく元気な子どもたち」が多く、日頃から教職員の皆さんがしっかり頑張っていることが想像できる。 ・ 管理職、教務主任、担任の先生方など、地域や公民館によく足を運んでくれるので、よい関係が続いている。登下校の交通安全の見守り、学校環境の整備、学習指導の支援など、これからも学校を支える活動を推進していきたい。			